

国語科学習指導案（6年1組）

平成26年 7 月 1 日（火）	第 4 校時（11:45～12:30）	6 年 1 組教室	指導者
平成26年 7 月 2 日（水）	第 2 校時（ 9 :40～10:25）	〃	〃
平成26年 7 月 3 日（木）	第 5 校時（14:05～14:50）	〃	〃
平成26年 7 月 4 日（金）	第 3 校時（10:55～11:40）	〃	〃
平成26年 7 月 7 日（月）	第 3 校時（10:55～11:40）	〃	〃
平成26年 7 月 7 日（月）	第 4 校時（11:45～12:30）	〃	〃
平成26年 7 月 8 日（火）	第 4 校時（11:45～12:30）	〃	〃
平成26年 7 月 9 日（水）	第 1 校時（ 8 :50～ 9:35）	〃	〃
平成26年 7 月 9 日（水）	第 2 校時（ 9 :40～10:25）	〃	〃

- 1 単元名 経験や想像を基に自分の思いを書こう
～構成の違いによる効果を生かして、自分の思いを書く～ 教材名「随筆を書こう」

2 考察

(1) 教材観

本教材では、学習指導要領第5学年及び第6学年「B書くこと」の指導事項「イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること」に重点をおきながら指導をする。中心的な言語活動は、「B書くこと」の言語活動例「ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりする」を具体化し、表現形式の一つとして、随筆を書くという学習活動を行う教材である。

随筆とは学習指導要領解説によると、「身近に起こったこと、見たことや聞いたこと、経験したことなどを他の人にも分かるように描写した上で、感想や感慨、自分にとっての意味などをまとめたもの」である。随筆を書くことで、自分自身が持っている物の見方や考え方、生き方などを見つめ直したり深めたりすることができる。

児童は、既に読むことの教材として、教科書上巻第一単元で「薫風」「迷う」を、第三単元で古典随筆の「枕草子」を学んできた。これらと関連付けて学習活動を行う。まず随筆とはどのような文章であったかという振り返りが、本教材の最初の学習活動となる。この活動を踏まえた上で、自分の経験や想像を基に実際の「書くこと」の活動に入っていく。

書く手順は、次のとおりである。①主題を決める。②題材を収集する。③三種類の構成を学ぶ。④構成表を作成する。⑤下書きをする。⑥構成表や下書きを見直し推敲し、清書する。⑦作品を交流し合う。これらの学習を通して、構成の工夫や多様な表現の仕方を実践的に学び、自分の表現活動に生かすことができると考える。

5年生では、自分を中心とした創作を学んでいる。随筆は、事実の説明が加わることによって、より発展させた文章表現力が要求される。文学的な文章から学んだことだけではなく、説明的な文章から学んだ表現や構成を生かして書く必要がある。このように、随筆作品を書くという表現活動は、書くことの大事な学習内容であると考えられる。

(2) 児童の実態及び指導方針（男子○名 女子○名 計○名）

学習に真面目に取り組み、積極的にノートを取ろうとする児童が多い。学級全体の場での発言は、やや消極的な場面もあるが、隣同士やグループで相談する時間を設けると、そこでは互いの考えを意欲的に交流している姿が見られる。

「書くこと」に関しては、文字を丁寧に書き、三段落構成で作文を書いたり、事実や感想などを区別して書いたりする力を徐々に身に付けてきている。

平成26年4月に行った「文を書くことが好きですか」のアンケート調査では、「好き」17%、「どちらかといえば好き」23%、「どちらかといえば嫌い」27%、「嫌い」33%であった。

今後は、書くことへの自信や意欲を持つことができるように、構成や表現の効果などについて指導し、伝えたいことを的確に書く力を身に付けさせる必要がある。そこで、文章構成への見通しを持つことができるように、モデル文を基に構成の違いによる効果に気付かせる。形式段落相互の関係が明確な効果的な構成にするために、形式段落ごとに文章の性質を明らかにし、必要に応じた適切なつなぎ言葉を用いて構成を考えさせる。伝えたいことを的確に伝えることができる文章にするために、伝え合いシートを用いた伝え合い活動により、構成表や下書きを見直し推敲させる。このような学習を通して、伝えたいことを的確に書くことができる児童の育成にせまりたい。

3 研究との関わり

小学校学習指導要領解説国語編（平成20年8月）の国語科の目標は、「国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」であり、「国語による表現力と理解力とを育成することが、国語科の最も基本的な目標である」としている。

平成25年度全国学力・学習状況調査小学校国語では、「A知識」に比べ「B活用」の平均正答率が低く、特に、「書くこと」の平均正答率は、43.9%と3領域の中で最も低い結果であった。この課題解決に向けて平成25年度全国学力・学習状況調査報告書小学校国語では書くことの「学習指導に当たって」の中で、「文の中での語句の係り方や照応の仕方に気付き、いろいろな文の構成があることについて理解できるようにする必要がある」としている。群馬県でも、全国と同じ傾向にあり、特に「B活用」については、全国平均正答率と比較して年々差が大きくなっている。

この結果から、はばたく群馬の指導プラン（平成24年3月）では、国語の課題2で「文章の特徴や表現の仕方について考えること」とし、課題3では、「自分の考えや伝えるべき内容を相手や目的に応じて表現すること」としている。

研究協力校では、平成25年度全国学力・学習状況調査小学校国語において、正答率が低かった問題は「目的や意図に応じ、複数の内容を関連付けながら、自分の考えを具体的に書く」「接続語を使って1文を2文に分けて書く」「目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書く」であった。このことから、「書くこと」に課題があることが分かった。

これらの結果を踏まえ、伝えたいことを的確に書くことができるように、構成を意識した「気付く・考える・見直す」の学習を取り入れる必要があると考えた。

まず、伝えたいことを明確にするために、相手意識や目的意識を持たせる。そして、構成を学ぶ過程において、文章構成への見通しを持つことができるように、頭括型・尾括型・双括型のモデル文を基に構成の違いによる効果に気付かせる。次に、構成表を作成する過程において、段落相互の関係が明確な効果的な構成にするために、形式段落ごとに文章の性質を明らかにし、必要に応じた適切なつなぎ言葉を用いて構成を考えさせる。そして、この構成表を基に下書きをさせる。その次に、推敲する過程において、伝えたいことを的確に書くことができるように、グループで構成表と下書きを照らし合わせて読み、構成に視点を当て気付いたことを伝え合いシートを通して伝え合う。そして、友達の気付きを受け、構成表や下書きを見直し推敲させる。また、表現の工夫をして伝えたことを的確に書くことができるように、表現技法などを用いて書き清書に結び付ける。さらに、書くことへの自信や意欲を持つことができるように、書き上がった文章は、相手意識を持つ際に設定した相手に読んでもらい、適切な評価や感想をもらう。このような構成を意識した「気付く・考える・見直す」の学習を通して、伝えたいことを的確に書くことができるであろう。

4 教材の目標

随筆の特徴を捉え、自分の経験や想像を基に随筆を書くことができる。

5 指導計画（全9時間予定）

評価 規 準	国語への関心・意欲 ・態度	自分で随筆を書いたり、友達の作品を読んだりしようとしている。		
	書く能力	文章全体の構成を考え、自分の経験や想像を基に随筆を書いている。		
	言語についての知識 ・理解・技能	自分の書こうとする随筆にふさわしい語句を選んだり、語順を考えたりしている。		
時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
		活用させたい知識等	思考力・表現力等	
第1時 ～ 第2時	課題 把握	・相手や目的に応じて主題 や題材を決定する知識	・随筆を読んだ感想を話し 合う力	①随筆の特質を捉え書く手順 を理解する。
			・経験したことなどから、 書くことを決める力 ・相手や目的に応じて書く 題材を収集し、全体を見 通して、題材を整理する 力	②主題を決定し、題材を収集 する。 ・相手意識や目的意識を持 ち、伝えたいことを明確に する。
第3時 ～ 第7時	課題 追究	・文章構成の知識（頭括型 ・尾括型・双括型） ・段落の役割の理解 ・文末表現で文の性質を見 る知識（疑問の文・事実 の文・思いの文等） ・接続詞の知識（だから・ しかし・これらのことから 等） ・文体の知識（常体・敬体） ・主語・述語・修飾語・被 修飾語の知識 ・表現技法の知識（オノマ トペ・比喩表現・反復法 等） ・既習漢字の理解 ・語句の意味の理解	・構成の違いによる効果に 気づき、文章構成への見 通しを持つ力	③三つの構成について学ぶ。
			・形式段落相互の関係を明 確にし、文章全体の構成 を考える力	④構成表を作成する。
			・一番伝えたい思いの根拠や 理由になる出来事を概説し たり、特定の場面を詳しく 描写したりして読み手に分 かるように書く力	⑤⑥構成表を基に、下書きを する。
			・書き手の意図を踏まえて 文章を読み、構成や記述 の明確さなどの面から助 言し合う力 ・構成表や下書きを見直し 推敲し、的確に書く力	⑦伝え合い活動を通して、下 書きを推敲する。
第8時 ～ 第9時	まとめ	・良い表現を見付けて読む 読解力	・作品交流を通して、友達 の物の見方や考え方を理 解する力	⑧⑨書き上げた随筆を交流し 合う。

6 展開（1／9）

(1) ねらい

- ・既習の随筆作品を想起させることを通して、随筆の特徴を捉え書く手順を理解させる。

(2) 準備

教師：教科書 ワークシート 1

児童：教科書

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	3分	・随筆を書くという学習過程が捉えられるように、「随筆を書こう」という教材文冒頭を読ませる。
[めあて] 随筆の特徴をつかみ、書く手順を理解しよう。		
2 今まで読んできた随筆を振り返り、随筆の特徴について考える。 ・「薫風」(黛まどか) 自分にとっての「薫風」を香りと思い出を事例として書いているな。 ・「迷う」(日高敏隆) アリやカモメを事例として「迷う」生活について書いているな。 ・「枕草子」(清少納言) 四季について、見たり聞いたり感じたことを書いているな。	15分	・既習の三つの随筆を想起できるように、それぞれの作品について筆者の思いや考えなどを確認する。 ・「薫風」・・・人それぞれに「薫風」にまつわる香りや思い出がある。 ・「迷う」・・・迷いのない人生など味気ない。先のことが分からないから生きていく楽しみがある。 ・「枕草子」・・・春は、まだ太陽は出ないが、夜明けの空が明るくなってくるころがいい。夏は・・・。
3 教科書を読み、随筆とはどんな文章なのかをつかむ。	10分	・随筆の特徴をつかむことができるように、既習の随筆作品で確認しながら随筆についてノートにまとめさせる。 随筆とは・・・ある出来事などを通して、自分の物の見方、感じ方、考え方をまとめて書いたもの。
4 随筆を書く手順を理解する。 ①書きたいことの中心（主題）を決める。 ②題材を収集する。 ③三種類の構成を学ぶ。 ④構成表を作成する。 ⑤下書きをする。 ⑥推敲、清書する。 ⑦作品を交流し合う。	15分	・学習への見通しを持って取り組むことができるように、書く手順をワークシートにまとめさせる。 ◇随筆の特徴をつかみ、随筆を書く手順を理解している。(児童観察・ワークシート)【書く】 ◇随筆を書くことへの意欲を持っている。(児童観察)【関心・意欲・態度】
5 本時のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。	2分	・次時への見通しを持つことができるように、次時は書く手順の①②の学習をすることを話す。

月 日 ()
随筆を書こう

めあて

随筆の特徴をつかみ、書く手順を理解しよう。

今まで読んできた随筆

・「薫風」

・「迷う」

・「枕草子」

随筆とは・・・

ある出来事などを通して、自分の物の見方、感じ方、考え方をまとめて書いた文章。

書く手順

①書きたいことの中心（主題）を決める。

②題材を収集する。

③三種類の構成を学ぶ。

④構成表を作成する。

⑤下書きをする。

⑥推敲、清書する。

⑦作品を交流し合う。

6 展開（2／9）

(1) ねらい

- ・ウェビングの手法を用いて、出来事や経験、思いや考えなどを広げて考えさせることを通して、主題の決定、題材の収集ができるようにする。
- ・相手意識や目的意識を持つことを通して、伝えたいことを明確にする。

(2) 準備

教師：教科書 ワークシート2 ワークシート3 付箋紙（ピンク色・水色）

児童：教科書

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	3分	・本時の学習課題をつかむことができるように、めあてを板書する。 [めあて] 書きたいことの中心（主題）を決め、題材を収集しよう。
2 随筆を誰に何のために書くのかを明確にする。 クラスの友達に自分の思いや考えを伝えることを通して、互いに認め理解し合えるようにするため。	5分	・伝えたいことを明確にするために、相手意識や目的意識を持たせる。
3 表現したいことの中心（主題）を決める。 ・ウェビングの手法を用いて「自分」を中心におき、出来事や経験、思いや考えなどを広げて考える。	15分	・出来事や経験、思いや考えなどを広げることができるように、中心に「自分」をおきウェビングの手法を用いて考えさせる。 ・構成表の作成に生かせるように、出来事や経験と思いや考えとを区別して書かせる。 ・主題が決定できるように、ウェビングの手法で広がったつながりのある言葉に着目させ、共通する思いや考えを見付けさせる。
4 伝えたいことを明確にして、題材を収集する。	20分	・伝えたい思いや考えを明確にして題材が収集できるように、主題に関わる出来事や経験、思いや考えなどを言葉や短い文で付箋紙に書き出させる。 ・伝えたいことを明確にして構成表を作成することができるように、一番伝えたいことは、ピンク色の付箋紙に文章ではっきり書かせる。 ・構成表を作成する学習に結び付けることができるように、一番伝えたいことは、ピンク色の付箋紙に文章で書き、題材は水色の付箋紙に言葉や短い文で書くよう指示する。 ◇書きたいことの中心（主題）を決め、伝えたいことを明確にして、題材を収集している。 (ワークシート)【書く】
5 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。	2分	・次時への見通しを持つことができるように、次時は、構成の学習（書く手順③）をすることを話す。

月 日 ()

随筆を書こう

めあて

書きたいことの中心 (主題) を決め、題材を収集しよう。

(誰に) クラスの友達に

(何のために) 自分の思いや考えを伝えることを通して、互いに認め理解し合えるようにするため。

・ 主題を考えよう

・ 主題

・ 一番伝えたい思いや考えはピンク色の付箋紙

・ 題材は水色の付箋紙

6 展開（3／9）

(1) ねらい

- ・構成の学習により構成の違いによる効果に気付かせることを通して、文章構成への見通しを持つことができるようにする。

(2) 準備

教師：頭括型・尾括型・双括型の拡大モデル文と構成表 文の性質表 つなぎ言葉表

児童：ワークシート3（付箋紙）

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究 の見通しを持つ。	3分	[めあて] 三種類の構成の違いによる効果をつかもう。
2 三つのモデル文を読み比べ、気付いたことを発表する。 三つのモデル文にそれぞれ同じ文があるな。 一番伝えたいことを最初に書いて伝える場合と、最後に書く場合と、二度書く場合とあるな。 伝えたいことをしっかり伝えるために、理由を書いたり、経験を交えて書いたりしているな。	20分	・構成の異なる3パターンのモデル文を配付する。 ・筆者が一番伝えたいことが何で、どこに書いてあるかをつかんで聞くように助言し、尾括型のモデル文を範読する。 ・尾括型のモデル文との違いを見付けながら読むよう助言し、頭括型・双括型のモデル文を各自に読ませる。 ・構成を意識できるように、「初め」「中」「終わり」に着目して読ませる。 ・筆者の一番伝えたいことがどこに書いてあるかを確認し、「頭括型」「尾括型」「双括型」をおさえる。
3 三つのモデル文の構成を分析し、構成の違いによる効果をつかむ。 頭括型は、一番伝えたいことを「初め」に書いて、「中」に理由や根拠を書くんだね。 尾括型は、一番伝えたいことにかかる具体的なできごとや理由などを「中」に書いて、一番伝えたい事を「終わり」に書くんだね。 双括型は「初め」と「終わり」に二度、一番伝えたいことを書くからしっかり伝えることができるね。	15分	・構成をつかませるために、形式段落ごとに文章の性質やつなぎ言葉を確認していく。 ・文末表現で見る文の性質表やつなぎ言葉表を基に、形式段落ごとに文章の性質やつなぎ言葉を確認する。 ・読み手が興味や関心を持つことができるように、一番伝えたいことを最初に書き、その後に理由や根拠を書く頭括型。 ・具体的な出来事や理由などを書いてじっくり最後まで読んでもらい、最後に一番伝えたいことを書く尾括型。 ・一番伝えたいことを最初と最後に二度書いて再認識してもらいしっかり書いて伝える双括型。
4 自分が書こうとしている文章構成への見通しを持つ。 最後までじっくり読んでもらい、わたしと同じ気持ちを味わってほしいから、尾括型で、物事の順序どおりに書きたいです。	5分	・構成の違いによる効果に気づき、自分が書こうとしている文章構成への見通しを持つことができたか確認する。 ◎全員が文章構成への見通しが持つことができるように、見通しを持つことができた児童の話の聞かせ参考に考えさせる。 ◇構成の違いによる効果を理解することができた。 (ワークシート)【書く】
5 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。	2分	・次時への見通しを持つことができるように、次時は、構成表を作成する（書く手順④）ことを話す。

7 板書計画

月 日 () 随筆を書こう		
めあて 三種類の構成の違いによる効果をつかもう。 ・モデル文を読み比べよう ・構成を分析しよう。		
【頭括型】 モデル文1	【尾括型】 モデル文2	【双括型】 モデル文3
モデル文1の構成	モデル文2の構成	モデル文3の構成

6 展開（４／９）

(1) ねらい

- 文章の性質やつなぎ言葉を確認しながら構成を考えさせることを通して、形式段落相互の関係が明確な、構成の違いによる効果を生かした効果的な構成表を作成できるようにする。

(2) 準備

教師：拡大した３パターンのモデル文と構成表 構成表 文の性質表 つなぎ言葉表

児童：ワークシート３ 文の性質表 つなぎ言葉表

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究 の見通しを持つ。	3 分	[めあて] 効果的な構成表を作成しよう。
2 構成表を作成する。 ・ワークシート３で記入した付箋紙 を用いて構成表を作成する。 ・見通しを持った構成のパターンを 基に構成を考える。 尾括型で構成を考えていたけれど、二 度書いてしっかり伝えたいから、双括 型にしよう。 ①段落は疑問の文。②段落は事実の 文。③段落は・・・。 順序を表す文章だから、「初めに」 「次に」「最後に」を使おう。まとめ を表す文章だから「このようにして」 がいいな。	20 分	- ワークシート３で記入した付箋紙を用いて、構成表を作成させる。 - 構成の効果を生かして構成表を作成できるように、前時の学習を振り返らせる。 - 構成表の作成手順が分かるように、モデル文を基に作り方の例を示す。 - 前時で見通しを持った構成のパターンを生かして構成を考えさせる。 - 伝えたいことを的確に伝えるための最適な構成を考えることができるように、付箋紙の配置を十分検討させる。 - 形式段落相互の関係が明確になるように、文の性質表を基に形式段落ごとに文章の性質を明らかにして構成を考えさせる。 - つなぎ言葉表を基に、形式段落をつなぐつなぎ言葉を適切に用いて構成を考えさせる。 - 構成の意図が分かるように、構成の選択理由や構成の工夫を構成表に明記するよう指示する。
3 作成した構成表を基に、文章に書く内容のスピーチをする。	13 分	形式段落相互の関係が明確な、構成の違いによる効果を生かした構成になっているか確認のために、構成表を見ながら書く内容のスピーチをさせる。 (スピーチ１回目：各自で スピーチ２回目：ペアで)
4 構成や題材（文章に書く内容）を見直す。	7 分	- 効果的な構成になるように、書く内容のスピーチを実際に行ってみた感じや、友達の感想を生かして構成を見直しさせる。 - 一番伝えたいことを的確に伝えるための最適な題材を用いて書くことができるように、付箋紙に書いた題材の内容について確認させる。 ◇形式段落相互の関係が明確な、構成の違いによる効果を生かした効果的な構成表を作成することができている。 (構成表)【書く】
5 学習のまとめをし、次時の学習へ の見通しを持つ。	2 分	次時への見通しを持つことができるように、次時は構成表を基に下書きする（書く手順⑤）ことを話す。

月 日 ()

随筆を書こう

めあて

効果的な構成表を作成しよう。

終わり	中	初め	
⑨ ⑧	⑦ ⑥ ⑤ ④ ③	② ①	段落
考えのまとめ 考え	考え・理由 考え・理由 考え 考え 事実	疑問 事実	文章の性質
これのちから	さらに しかし 例えば		つなぎ言葉
考えのまとめ 母の想像力	考えの変化 周りに目を向けて	母に叱られた 「想像力」って 想像を辞書で引く 自分の経験 イメージの想像	内容

構成表作成の例

【尾括型】「想像力」

構成の選択理由や工夫を書こう。

6 展開（５・６／９）

(1) ねらい

- ・構成表に基づいた構成で書くことを通して、的確に書くことができるようにする。

(2) 準備

教師：拡大した３パターンモデル文と構成表 原稿用紙 文の性質表 つなぎ言葉表 わざ表

児童：構成表 文の性質表 つなぎ言葉表 国語辞典

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	3分	・本時の学習課題をつかむことができるように、めあてを板書する。 [めあて] 構成表を基に下書きしよう。
2 構成表を基に随筆の下書きをする。	85分	・原稿用紙の書き方について確認する。 ・一番伝えたいことは明確か、それを伝えるための具体的な経験や出来事をどこでどのように書くかなどを確認させてから書き始めさせる。 ・形式段落相互の関係が明確になるように、書きながら文章の性質を確認し、必要に応じたつなぎ言葉を用いて書くよう説明する。 ・構成表との関連が分かりやすいように、原稿用紙に形式段落の番号を書くよう指示する。 ・形式段落をつなぎ言葉に限らず、文と文をつなぎ言葉も必要に応じて適切に使うことができるように、つなぎ言葉表を活用させる。 ・伝えたいことが、読み手に的確に伝わるように、主題に関わる経験や思いを具体的に書くよう助言する。 ・伝えたいことを的確に伝えるための表現の工夫ができるように、表現技法などをまとめたわざ表を活用させる。 ・既習の漢字を用いて書くことができるように、必要に応じて、辞典等を活用させる。 ◎書き出せない児童には、個別に話を聞き出し、その聞き出した話を基に文章を組み立てていけるように支援する。 ・読み合う活動を見据えて、800字程度で書かせる。 ◇構成表に基づいた構成で、伝えたいことを明確にして経験を交えたり、表現の工夫をしたりしながら書いている。 (文章)【書く】
3 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。	2分	・次時への見通しを持つことができるように、次時は推敲・清書（書く手順⑥）をすることを話す。

月 日 ()

随筆を書こう

めあて

構成表を基に下書きしよう。

注意点

- ① 一番伝えたい思いや考えをはっきりさせて、具体的な経験や出来事を書こう。
- ② 構成表を基にした文章の組み立てで、書こう。
- ③ 文章の性質やつなぎ言葉を確認しながら書こう。

6 展開（7／9）

(1) ねらい

- ・伝え合い活動を生かして、構成表や下書きを見直し推敲させることを通して、的確に伝えることができる文章を書くことができるようにする。

(2) 準備

教師：拡大した伝え合いシート 伝え合いシート（ワークシート4） 構成表 文の性質表
つなぎ言葉表 わざ表 原稿用紙

児童：構成表 下書き 文の性質表 つなぎ言葉表 わざ表 国語辞典

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	3分	・本時の学習課題をつかむことができるように、めあてを板書する。 [めあて] 伝えたいことが的確に伝わる文章になるように、推敲して書こう。
2 4～5人のグループで下書きと構成表を照らし合わせて読み、気付いたことを伝え合いシートを通して伝え合う。 構成表では⑨段落なのに、文章は⑥段落なのが、気になった。 もう少し具体的な経験や思いを書いたほうが、より伝わると思うよ。	15分	・的確に伝えることができる文章になるように、グループで下書きと構成表を照らし合わせて読み、伝え合いシートを通して、気付いたことを伝え合わせる。 ・伝え合いシートの三つの観点（○と△で評価） ①構成表を基にした構成で書いてあるか。 ②具体的な経験や思いが書いてあるか。 ③文章の性質を明らかにして、つなぎ言葉を適切に用いて書いてあるか。 ・読み手の気付きを生かして構成表や下書きを見直し推敲することができるように、伝え合いシートに気付いたことを文章で書いて伝え合わせる。
3 友達からのアドバイスを基に、推敲する。	10分	・伝えたいことを的確に伝えることができる文章になるように、友達からの気付きを受けて、構成表や下書きを見直し推敲させる。 ・表現の工夫ができるように、わざ表を活用した表現などを紹介する。
4 清書する。	15分	・伝えたいことを的確に伝えることができる文章になるように、推敲を基に清書させる。 ◇伝えたいことを的確に伝えられる文章にすることができるように、下書きを推敲し清書に結び付けている。 (清書)【書く】 ◇自分の書こうとする随筆にふさわしい語句を選んだり、語順を考えたりしている。 (清書)【言語】
5 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。	2分	・次時への見通しを持つことができるように、次時は発表会をする（書く手順⑦）ことを話す。

月 日 ()

随筆を書くこう

めあて

伝えたいことが的確に伝わる文章になるように、推敲して書こう。

- ・伝え合いシートの三観点 (○△)
- ①構成表を基にした構成で書いてあるか。
- ②具体的な経験や思いが書いてあるか。
- ③文章の性質を明らかにして、つなぎ言葉を適切に用いて書いてあるか。
- ・その他に気付いたことを書いて伝える。

伝え合いシート

名前	観点①	観点②	観点③	その他
	○	△	○	
例文				
例文				
例文				

- ・友達の気付きを受けて、構成表や下書きを見直し推敲し、清書に結び付ける。

6 展開（８・９／９）

(1) ねらい

- ・作品を交流し合うことを通して、友達の思いや考えを知るとともに、文章のよさを感じ取ることができるようにする。

(2) 準備

教師：交流シート（ワークシート５） わざ表

児童：清書

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	3分	・本時の学習課題をつかむことができるように、めあてを板書する。 [めあて] 友達の思いや考えを読み取ろう。 文章のよさを感じ取ろう。
2 4～5人のグループで交流し合う。 「努力」「継続」「向上」の意味が、しっかり伝わって応援したくなったよ。 興味をひく題名で、すぐに読んでみたくなったよ。 リフティングができるようになったときの喜びが、この文章からよく伝わってきました。	25分	・友達の思いや考えを知ることができるように、4～5人のグループで作品を交流し合う。 ・作品を読む際には、内容理解と文章全体の表現のよさに気付くための形式理解の二つの視点で読むように助言する。 ・書き手が書くことへの自信や意欲を持つことができるように、適切な評価や感想を交流シートに書いて伝えるように説明する。
3 各グループの代表者が、クラスの全員の前で発表する。	25分	・グループ内で最も的確に書けたと思われる作品を選出させ、グループ以外の友達とも交流できるように、クラス全員の前で発表させる。
4 一人一人が自由に作品を交流し合う。	30分	・クラスのたくさんの友達の思いや考えを知ることができるように、交流し合う相手を見付けて時間いっぱい自由に交流させる。 ・作品、交流シート、筆記用具を持って、教室内で交流させる。 ◇友達の作品を読もうとしている。 (児童観察)【関心・意欲・態度】 ◇友達の思いや考えを知るとともに、文章のよさを感じ取っている。(観察・交流シート)【書く】
5 本教材のまとめをする。	7分	・身に付いたことなどが確認できるように、本教材の学習を振り返って感想を発表させる。

月 日 () 随筆を書こう めあて 友達の思いや考えを読み取ろう。 文章のよさを感じ取ろう。 ○こんな視点で作品を読んで交流シートを書こう。 ①友達が一番伝えたいことは、何か。 ②作品のよさは、どんなところか。					
交流シート <table border="1"> <tr> <td>名前</td> <td>読んだ感想</td> </tr> <tr> <td>群馬 花子</td> <td>「終わり」に一番伝えたいことが書いてあった。日常に「想像」を当てはめて・・・。</td> </tr> </table>		名前	読んだ感想	群馬 花子	「終わり」に一番伝えたいことが書いてあった。日常に「想像」を当てはめて・・・。
名前	読んだ感想				
群馬 花子	「終わり」に一番伝えたいことが書いてあった。日常に「想像」を当てはめて・・・。				

国語科学習指導案 6年1組

平成26年9月30日（火）第4校時（11:45～12:30）	6年1組教室	指導者 宮崎 正子
平成26年9月30日（火）第5校時（14:05～14:50）	〃	〃
平成26年10月3日（金）第3校時（10:55～11:40）	〃	〃
平成26年10月7日（火）第4校時（11:45～12:30）	〃	〃
平成26年10月9日（木）第5校時（14:05～14:50）	〃	〃

- 1 単元名 運動会作文で思いを伝えよう
～文章全体の構成を考え、自分の思いを的確に表現する～ 教材名「体験文を書こう」

2 考察

(1) 教材観

本教材では、学習指導要領第5学年及び第6学年「B書くこと」の指導事項「イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること」に重点をおきながら指導をする。中心的な言語活動は、「B書くこと」の言語活動例「ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりする」を具体化し、表現形式の一つとして、運動会を通した体験文を書くという学習活動を行う教材である。小学校生活最後の運動会を振り返り、親に運動会の思いを伝えることを通して、自分の成長を知ってもらうことを目的とした体験文を運動会作文とする。

本校の運動会練習は、約三週間に渡って行われるが、この期間中は、題材の収集に役立てるために、運動会練習についての一行日記を書く活動を継続して行う。また、三週間と練習期間が長いから、例年暑い、疲れるなどの理由から、練習に対しての集中力や意欲が低下する時期がある。そのような機会を捉えて、あらかじめ収集しておいた保護者からの励ましの言葉や、小学校生活最後の運動会に取り組む我が子への思いなどを児童に伝える。そのことにより、児童のやる気を引き出すとともに、運動会作文の読み手となる親を意識し、相手意識を持つきっかけとしたい。児童は、自分の競技に全力で取り組んだり、いろいろな係や立場で責任を持って運動会の運営に関わったりする。それらのことを通し、児童にとって運動会は、思い出深い印象的な行事となり、児童は様々な思いや感動を手にする。自分の努力や成果を振り返り、思い出や感動を文章で表現することを通して、その場では気付かなかったことや自分自身の成長に改めて気付く、今まで応援してくれた親への感謝の気持ちを込めて、運動会作文に書いて相手意識を持つ際に設定した親に伝える。そして、適切な評価や感想をもらうことを通して、的確に書けた喜びや書いて伝えられた満足感を実感させたい。

児童は、一学期に「随筆を書こう」の教材で、頭括型・尾括型・双括型の「構成3パターン」のモデル文を基に構成の違いによる効果について学習した。そして、形式段落ごとに文章の性質を明らかにして、必要に応じたつながり言葉を用いて構成を考えることにより、形式段落相互の関係が明確な構成の違いによる効果を生かした構成表を作成した。その後、グループで下書きと構成表を照らし合わせて読み、伝え合いシートを通して気付いたことを伝え合い、構成表や下書きを見直し推敲し、清書に結び付けた。そして、書き上がった作品は、学級全体で交流し合った。

本教材では、「随筆を書こう」の学習と同様に、文章全体の構成の効果を考えて文章を書く力を身に付け、伝えたいことが読み手に的確に伝わる文章になるように、構成表を意識した「気付く・考える・見直す」の学習を取り入れる。構成を意識した「気付く・考える・見直す」の繰り返しの学習により、児童の書くことへの意欲を高め、目的や意図、相手に応じて構成を考えて的確に書く力が定着するように指導をしていきたい。

このように、運動会は嬉しかった気持ちや悔しかった気持ちなど、一人一人の思いや感動が表現しやすい行事であることから、本教材は、文章全体の構成を考え、自分の思いを的確に表現することにおいて、価値ある教材と考える。

(2) 児童の実態及び指導方針（男子○名 女子○名 計○名）

学習に真面目に取り組み、積極的にノートを取ることができる児童が多くなった。自分の考えや意見を持ち、学級全体の場で進んで発言できる児童が一学期より増えてきた。隣同士やグループで交流する時間には、はっきりと自分の考えを伝え、互いの考えを認め合いながら意欲的に交流している。

平成26年4月に行った全国学力・学習状況調査では、6年生○人の平均正答率は、国語A76.1%（全国平均正答率は72.9%）、国語B62.1%（55.5%）だった。

一学期に取り組んだ「随筆を書こう」で学んだ頭括型・尾括型・双括型の構成を意識して文章を書こうとする児童が見られようになった。

「随筆を書こう」の学習後のアンケートでは、「構成3パターンの違いや効果は分かりましたか」に対して「よく分かった」86%、「だいたい分かった」14%だった。「構成について学んだことを生かして構成表を作成することができましたか」に対して「できた」77%、「だいたいできた」22%。

「文章の性質やつなぎ言葉を確認しながら構成を考えたことは、構成表作りに役に立ちましたか」に対して「とても役に立った」71%、「少し役に立った」29%。「伝え合い活動でアドバイスし合ったことは、伝えたいことがよく伝わる文章にするのに役に立ちましたか」に対して「とても役に立った」60%、「少し役に立った」29%、「あまり役に立たなかった」7%だった。このように、児童は構成の違いや効果をに気付き、文章の性質やつなぎ言葉を確認しながら構成を考えることができたとしている児童が多かった。また、伝え合い活動を通して構成表や下書きを見直し推敲する学習が役立ったとしている児童が多かった。

今後は、これらの学習を生かし、目的や意図、相手に応じて文章全体の構成を考えて伝えたいことを的確に書く力の定着を図りたい。

3 研究との関わり

小学校学習指導要領解説国語編（平成20年8月）の国語科の目標は、「国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」であり、「国語による表現力と理解力とを育成することが、国語科の最も基本的な目標である」としている。

平成25年度全国学力・学習状況調査小学校国語では、「A知識」に比べ「B活用」の平均正答率が低く、特に、「書くこと」の平均正答率は、43.9%と3領域の中で最も低い結果であった。この課題解決に向けて平成25年度全国学力・学習状況調査報告書小学校国語では書くことの「学習指導に当たって」の中で、「文の中での語句の係り方や照応の仕方に気付き、いろいろな文の構成があることについて理解できるようにする必要がある」としている。群馬県でも、全国と同じ傾向にあり、特に「B活用」については、全国平均正答率と比較して年々差が大きくなっている。

この結果から、はばたく群馬の指導プラン（平成24年3月）では、国語の課題2で「文章の特徴や表現の仕方について考えること」とし、課題3では、「自分の考えや伝えるべき内容を相手や目的に応じて表現すること」としている。

また、研究協力校では、平成25年度全国学力・学習状況調査小学校国語において、正答率が低かった問題は「目的や意図に応じ、複数の内容を関連付けながら、自分の考えを具体的に書く」「接続語を使って1文を2文に分けて書く」「目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書く」であった。このことから、「書くこと」に課題があることが分かった。

これらの結果を踏まえて、伝えたいことが読み手に的確に伝わるように文章を組み立てる力を身に付けることが大切であると考え、構成に視点を当て書くことの研究に取り組むこととした。

構成とは、書く題材をどのような順序に配置して書くかの設計図であると捉える。題材の順序に導かれながら、読み手は文章の展開をたどっていく。つまり、構成が違えば、読み手への伝わり方も大きく変わってくる。伝えたいことを的確に読み手に伝えることができる文章を書くことができるように、構成を考える学習を丁寧に指導をしていく必要がある。また、その文章の構成を考える過程が、自分の考

えを明確にすることにもつながっていくと考える。

「随筆を書こう」の学習では、頭括型・尾括型・双括型の三つの構成のモデル文を基に、構成の違いによる効果に気付かせ、文章構成への見通しを持たせた。次に、構成の違いによる効果を生かして形式段落ごとに文章の性質やつなぎ言葉を確認しながら構成表を作成した。文章の性質とは、文末表現に着目して八つ（疑問の文、事実の文、意見・感想・思い・考えの文、命令の文、推定の文、伝聞の文、誘いの文、理由の文）に分類してまとめた表を基にした。つなぎ言葉とは、形式段落をつなぐ言葉とし、十の役割別（理由を表すとき、まとめ・結果・結論を表すとき、前の文を受けるとき、前の文を打ち消すとき、前の文に付け加えるとき、話題を変えるとき、同じ内容を並べるとき、例を表すとき、順序を表すとき、前の文を強調するとき）に分類してまとめた表を基にした。さらに、推敲の過程で、構成表と下書きを照らし合わせて読み、気付いたことを伝え合いシートを通して伝え合う活動を取り入れた。そして、友達の気付きを受けて構成表や下書きを見直し推敲した。また、わざ表を活用し、表現の工夫をして清書に結び付けた。書き上がった文章は、学級で交流し合った。

本教材の目標は、「相手意識や目的意識を持ち、自分の思いを効果的に書くことができる」である。本教材でも構成表を意識した「気付く・考える・見直す」の学習を通して運動会作文を書いていく。「随筆を書こう」での学習を生かし、目的や意図、相手に応じて構成を意識して伝えたいことを的確に書く力の定着を図りたい。伝えたいことを的確に書いた文章は、読み手も書き手の伝えたいことを的確に理解することができるであろう。

4 単元の目標

相手意識や目的意識を持ち、自分の思いを効果的に書くことができる。

5 指導計画（全5時間予定）

評価 規 準	国語への関心・意欲・態度		運動会を通して伝えたい思いを体験文にして、家族に伝えようとしている。	
	書く能力		自分の伝えたいことを的確に表現するため、文章全体の構成を考え、自分の経験を基に運動会の体験文を書いている。	
	言語についての知識・理解・技能		自分の書こうとする体験文にふさわしい語句を選んだり、語順を考えたりしている。	
時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
		活用させたい知識等	思考力・表現力等	
第1時	課題把握	・相手や目的に応じて主題や題材を決定する知識	・経験したことなどから、書くことを決める力 ・相手や目的に応じて書く題材を収集し、全体を見通して、題材を整理する力	①小学校生活最後の運動会を振り返り、親に自分の思いを伝える体験文の主題を決定し、題材を収集する。
第2時	課題追究	・文章構成の知識（頭括型・尾括型・双括型） ・段落の役割の理解 ・文末表現で文の性質を見る知識（疑問の文・事実の文・思いの文等）	・形式段落相互の関係を明確にし、文章全体の構成を考える力	②自分の伝えたいことを的確に書くための効果的な構成表を作成する。
第3時		・接続詞の知識（だから・しかし・これらのことから等） ・文体の知識（常体・敬体）	・一番伝えたい思いの根拠や理由になるできごとを概説したり、特定の場面を詳しく描写したりして読み手に分かるように書く力 ・表現の効果などについて工夫する力	③構成表を基に、下書きをする。

第4時		- 主語・述語・修飾語・被修飾語の知識 - 表現技法の知識（オノマトペ・比喻表現・反復法等） - 既習漢字の理解 - 語句の意味の理解	- 書き手の意図をふまえて文章を読み、構成や記述の明確さなどの面から見て助言し合う力 - 構成表や下書きを見直し推敲し、的確に書く力	④伝え合い活動を通して、下書きを推敲する。
第5時	まとめ	- 表現技法の知識（オノマトペ・比喻表現・反復法等） - 既習漢字の理解	伝えたい思いを効果的に書き表す力	⑤清書する。 単元全体を振り返り、学習したことをまとめる。 ※書き上げた運動会作文は、親に読んでもらう。

6 展開（1／5）

(1) ねらい

- 運動会の印象的な出来事を想起させることを通して、運動会作文を書こうとする意欲を引き出す。
- 相手意識や目的意識を明確にすることを通して、主題に基づいた題材を収集させる。

(2) 準備

教師：ワークシート1 ワークシート2 付箋紙（ピンク色・水色） 運動会プログラム 写真

児童：運動会一行日記

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 運動会で心に残ったことを話そう。 〇〇ソーラン 120m徒競走 - 騎馬戦 - 応援合戦 - 団対抗リレー - 全校ダンス「八木節」	10分	- 書いて伝えたいという思いを引き出すことができるように、運動会を想起させ、心に強く残ったことを中心に話を聞き出す。 - 児童の記憶が鮮明になるように、写真を活用する。 - 児童に気付きを持たせるために、事前に聞き取っておいたエピソードなどを話す。 - 励まし支えてくれた親の思いに気付けるように、練習時に紹介した親からの励ましのメッセージなどを再度紹介する。
2 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。 [めあて] 主題（書きたいことの中心）を決め、題材を収集しよう。	3分	本時の学習課題をつかむことができるように、めあてを板書する。
3 運動会作文を誰に何のために書くのかを明確にする。 母に、協力して取り組んだ〇〇ソーランについて伝えるため。 父に、つらかった練習を乗り越えて大成功した運動会について伝えるため。	5分	伝えたいことを明確にするために、相手意識や目的意識を持たせ、ワークシートに記入させる。

4 主題を決定し、題材を収集する。 主題は「達成感を味わった運動会」にしよう。 「友達と協力し合った運動会」を主題にしよう。 題材は ・練習で筋肉痛がつかったときのこと ・親のメッセージを聞いたときのこと ・友達が励ましてくれたときのこと ・ピラミッドが作れたときのこと ・運動会本番で成功したときのこと にしよう。	25分	・学習への見通しを持つことができるように、主題の例を示す。 ・書きたいことの中心を明確にすることができるように、ワークシートに記入させる。 ◎書きたいことの中心が決まらない児童の手立てとなるように、ワークシートに記入することができた児童の主題を紹介する。 ・主題に関わる経験や思いなどの題材が収集できるように、運動会練習中に書いた一行日記を参考にするよう助言する。 ・主題とそれを伝えるための題材と区別ができるように、一番伝えたいことは、ピンク色の付箋紙に文章ではっきり書き、それを伝えるため題材は水色の付箋紙に言葉や短い文で書くよう指示する。 ◇運動会を通して伝えたい思いを体験文にして、家族に伝えようとしている。 (児童観察)【関心・意欲・態度】 ◇書きたいことの中心(主題)を決め、伝えたいことを明確にして、題材を収集している。 (ワークシート)【書く】
5 本時のまとめをし、次時の学習へ の見通しを持つ。	2分	・次時への見通しを持つことができるように、次時は構成表を作成することを話す。

7 板書計画

月 日 ()

運動会で心に強く残っていること

運動会写真

- ・〇〇ソーラン
- ・120m徒競走
- ・騎馬戦
- ・応援合戦
- ・団対抗リレー
- ・全校ダンス「八木節」

運動会作文を書こう

めあて

主題(書きたいことの中心)を決め、題材を収集しよう。

誰に・・・親に

何のために・・・運動会の思いを伝えることを通して、自分の成長を知ってもらうため。

主題(書きたいことの中心)

一番伝えたいこと(文章で)

題材(短い文や言葉で)

6 展開（2／5）

(1) ねらい

- 文章の性質やつながぎ言葉を確認しながら構成を考えさせることを通して、形式段落相互の関係が明確な、構成の違いによる効果を生かした効果的な構成表を作成できるようにする。

(2) 準備

教師：構成表 原稿用紙 文の性質表 つなぎ言葉表 わざ表

児童：付箋紙を貼付したワークシート2 文の性質表 つなぎ言葉表

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	3分	・本時の学習課題をつかむことができるように、めあてを板書する。
[めあて] 形式段落相互の関係が明確な構成の違いによる効果を生かした構成表を作成しよう。		
2 構成の見通しを持って、構成表を作成する。	20分	- 構成の違いによる効果を生かして構成表を作成することができるように、既習の「構成3パターン」について確認する。 頭括型 すぐに、一番伝えたいことを伝える場合の書き方。一番伝えたいことを「初め」に書き、理由や根拠を「中」に書く。 尾括型 じっくり最後まで読んでもらいたい場合の書き方。一番伝えたいことを「終わり」に書き、「中」に根拠や理由を書く。 双括型 しっかり伝えたい場合の書き方。理由や根拠が長いときなどに、一番伝えたいことを二度書いて伝える。一番伝えたいことを「初め」と「終わり」に書く。 - 構成表作成の見通しを持つことができるように、構成表作成の手順を例示する。 - 一番伝えたいことがよく伝わる文章になるように、主題に関連する題材を適切に選ぶよう助言する。 - 伝えたいことを的確に伝えるための最適な構成を考えることができるように、付箋紙の配置を十分検討させる。 - 形式段落相互の関係が明確になるように、文の性質表を基に形式段落ごとに文章の性質を明らかにして構成を考えさせる。 - つながぎ言葉表を基に、形式段落をつなぐつながぎ言葉を適切に用いて構成を考えさせる。 - 構成の意図が分かるように、構成の選択理由や構成の工夫を構成表に明記するよう指示する。

実際に経験した順序で書き、最後に一番伝えたいことを書いてまとめたいので、尾括型で書こう。

最初に一番伝えたいことを書き、「中」に理由や根拠となる経験を書き、最後にもう一度、一番伝えたいことを書いて、しっかり伝えたいので、双括型で書こう。

①は事実の文。②は思いの文。③は・・・。

前の文を受けるから「だから」を使おう。前の文に付け加える文だから「さらに」を使おう。まとめを表すから「これらのことから」を使おう。

		・構成表ができあがった児童には、下書きを見てすぐに書き出すことができるように、形式段落の書き出しの言葉を考えるよう指示する。 ◎伝えたいことを明確にして構成表が作成できるように、個別に話を聞き出し助言する。
3 作成した構成表を基に、文章に書く内容のスピーチをする。	15分	・形式段落相互の関係が明確な、構成の違いによる効果を生かした構成になっているか確認したり、構成表を下書きに結び付けたりできるように、構成表を見ながら書く内容のスピーチをさせる。 (スピーチ1回目：各自で スピーチ2回目：ペアで) ・伝えたいことを的確に書くことができる構成にするために、ペアで構成表を見ながらスピーチし合い、構成を見直しさせる。 ・交流を通してより効果的な構成になるように、構成に視点を当て、互いに質問したり、アドバイスしたりするよう促す。 ・構成表を基に書く内容のスピーチをするよう指示する。 ◇構成の違いによる効果を生かした、形式段落相互の関係が明確な構成表を作成している。 (構成表)【書く】
4 題名を考える。	5分	・題名の工夫ができるように、本文のキーワードや主題と関連させて考えるよう助言する。 ◎題名が決まらない児童の手立てとなるように、工夫された題名を紹介する。
5 本時のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。	2分	・次時への見通しを持つことができるように、次時は構成表を基に下書きすることを話す。

7 板書計画

月 日 () 運動会作文を書こう めあて 形式段落相互の関係が明確な、構成の違いによる効果を生かした構成表を作成しよう。		
文章の性質 つなぎ言葉 内容 構成の理由や工夫 構成のパターン () 括型	双括型 尻括型 頭括型 尾括型 ・ ・ ・ しっかり伝えたい場合の書き方。理由や根拠が長いときなどに、一番伝えたいことを二度書いて伝える。一番伝えたいことを「初め」と「終わり」に書く。 ・ ・ ・ じつくり最後まで読んでもらいたい場合の書き方。一番伝えたいことを「終わり」に書き、「中」に根拠や理由を書く。 ・ ・ ・ すぐに、一番伝えたいことを伝える場合の書き方。一番伝えたいことを「初め」に書き、理由や根拠を「中」に書く。 ・ ・ ・ 最後まで読んでほしい場合の書き方。一番伝えたいことを「中」に書き、理由や根拠を「初め」と「終わり」に書く。	

6 展開（3／5）

(1) ねらい

- ・構成表に基づいた構成で書くことを通して、構成の効果を生かして書くことができるようにする。

(2) 準備

教師：原稿用紙 文の性質表 つなぎ言葉表 わざ表

児童：構成表 文の性質表 つなぎ言葉表 わざ表

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	3分	・本時の学習課題をつかむことができるように、めあてを板書する。 [めあて] 構成表を基に、的確に書こう。
2 構成表を基に運動会作文の下書きをする。	40分	・原稿用紙の書き方について確認する。 ・一番伝えたいことを明確にさせ、それを伝えるための具体的な経験や出来事をどこでどのように書くかを確認させてから書き始めさせる。 ・構成の工夫を生かして書けるように、一番伝えたいことや、構成の型を確認してから書き出すよう指示する。 ・構成が下書きの文章につながっていくように、構成表を基に書く内容のスピーチをしてから書き始めるように指示する。 ・構成表を基に書くことができるように、形式段落ごとに文章の性質を確認したり、構成表に記入したつなぎ言葉を文章に用いたりして書くように説明する。 ・構成表との関連が分かりやすいように、原稿用紙に形式段落の番号を書くよう指示する。 ・伝えたいことが、読み手に的確に伝わるように、主題に関わる経験や思いを具体的に書くよう助言する。 ・伝えたいことを的確に伝えるための表現の工夫ができるように、表現技法などをまとめたわざ表を活用させる。 ・読み合う活動を見据えて、800字程度で書くよう指示する。 ・既習の漢字を用いて書くことができるように、必要に応じて、辞典等を活用するよう伝える。 ◎書き出せない児童には、個別に話を聞き出し、その聞き出した話を基に文章を組み立てていけるように支援する。 ◇構成表に基づいた構成で、構成の効果を生かして書いている。 (下書きの文章)【書く】
3 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。	2分	・次時への見通しを持つことができるように、次時は、グループで推敲し合うことを話す。

月 日 ()

運動会作文を書こう

めあて
構成表を基に、的確に書こう。

注意点
① 構成表に基づいた文章の組立てで書く。
② 具体的な経験や思いをはっきり書く。
③ 文章の性質を明らかにして、つなぎ言葉を適切に用いて書く。

下書き

							×		×
									×
								六	×
								年	題
								一	名
								組	
								×	
								宮	
								崎	
								×	
								正	
								子	
								×	

6 展開（４／５）

(1) ねらい

- ・伝え合いシートを用いた伝え合い活動を生かし、構成表や下書きを見直し推敲させることを通して、的確に伝えることができる文章にする。

(2) 準備

教師：構成表 伝え合いシート（ワークシート４）原稿用紙 文の性質表 つなぎ言葉表 わざ表

児童：構成表 文の性質表 つなぎ言葉表 わざ表

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	3分	・本時の学習課題をつかむことができるように、めあてを板書する。 [めあて] 伝えたいことが的確に伝わる文章になるように、推敲して書こう。
2 4～5人のグループで下書きと構成表を照らし合わせて読み、気付いたことを伝え合いシートを通して伝え合う。 構成表どおりの構成で、尾括型で書いてあった。 一番伝えたいことは、分かったけれど、その理由を詳しく書くと、もっと分かると思うよ。 説明や理由の後に、一番伝えたいことが書いてあったので、とても分かりやすかった。 「これらのことから」のまとめを表すつなぎ言葉を使うといいと思うよ。	25分	・的確に伝えることができる文章になるように、グループで下書きと構成表を照らし合わせて読み、伝え合いシートを通して、気付いたことを伝え合わせる。 ・伝え合いシートの三つの観点（○と△で評価） ①構成表を基にした構成で書いてあるか。 ②具体的な経験や思いが書いてあるか。 ③文章の性質を明らかにして、つなぎ言葉を適切に用いて書いてあるか。 ・読み手の気付きを生かして構成表や下書きを見直し推敲することができるように、伝え合いシートに気付いたことを文章で書いて伝え合わせる。 ・三観点についてワークシートを記入し終わった児童は、作品の良い点など気付いたことを「その他」の欄に書いて伝えるよう助言する。
3 友達からのアドバイスを基に、推敲する。 一番伝えたいことの根拠となる文章をもっと詳しく書き直したいな。会話文を使ったり、そのときの自分の表情や気持ちを順序よく書き表したりするといいかな。	15分	・伝えたいことを的確に伝えることができる文章にするために、伝え合いシートの友達の気付きを受けて構成表や下書きを見直し推敲するよう説明する。 ・友達の気付きを有効に生かすことができるように、必要に応じて、直接友達に話を聞くよう助言する。 ・伝えたいことを的確に伝えることができる文章にするために、下書きの文章と推敲した文章との比較検討をしながら清書に結び付けるよう指示する。 ◇伝えたいことが相手に的確に伝わる文章になるように、推敲している。（推敲した文章）【書く】
4 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。	2分	・次時への見通しを持つことができるように、次時は、清書をするを話す。

月 日 ()

運動会作文を書こう

めあて

伝えたいことが的確に伝わる文章になるように、推敲して書こう。

- ・伝え合いシートの三観点 (○△)
- ① 構成表を基にした構成で書いてあるか。
- ② 具体的な経験や思いが書いてあるか。
- ③ 文章の性質を明らかにして、つなぎ言葉を適切に用いて書いてあるか。
- ・その他に気付いたことを書いて伝える。

友達の気付きを受けて、構成表や下書きを見直し推敲し、清書に結び付ける。

伝え合いシート

名前	観点①	観点②	観点③	その他
	○	△	○	
例文				
例文				
例文				

6 展開（5／5）

(1) ねらい

推敲した文章を基に清書することを通して、伝えたいことを的確に書くことができるようにする。

(2) 準備

教師：原稿用紙 構成表 伝え合いシート 文の性質表 つなぎ言葉表 わざ表

児童：下書き 構成表 伝え合いシート 文の性質表 つなぎ言葉表 わざ表 国語辞典

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、追究の見通しを持つ。	3分	・本時の学習課題をつかむことができるように、めあてを板書する。
[めあて] 推敲を基に、伝えたいことを的確に書こう。		
2 推敲を基に清書する。 丁寧を書いて、思いをお母さんに伝えたいな。 誤字脱字がないように、よく確認して書こう。	40分 	・伝えたいことを的確に伝えることができる文章にするために、伝え合い活動を生かして見直し推敲した文章を基に清書するよう伝える。 ・伝えたいことを的確に書くことができるように、どこをどんなふうに推敲するのかを確認してから書き始めるように指示する。 ・読み手に思いが伝わるように、既習の漢字を用いて丁寧に正しく書かせる。 ・誤った記述や書き間違いがないように、書き上がった作品を読んで確認するように指示する。 ・誤字脱字などが無い作品とするために、書き終わった児童同士で作品を交換して読み合うよう指示する。 ・児童間で作品の相互評価ができるように、交換し合って読んだ後に、感想などを伝え合うように指示する。 ◇伝えたいことを的確に書いている。 (清書した文章)【書く】
3 本学習のまとめをする。 つなぎ言葉を意識して「初め」「中」「終わり」の構成を考えて書くことができました。 文章を書く楽しさが分かりました。 友達の作文の良いところを見付けることができました。 私の味わったドキドキ感ワクワク感をしっかり書くことが、できたと思います。	2分 	・学習してきたことが確認できるように、本学習を振り返り感想などを発表させる。 ・書き上げた運動会作文を親に読んでもらい、感想を書いてもらうことを確認する。

月 日 ()

運動会作文を書こう

めあて

推敲を基に、伝えたいことを的確に書こう。

清書

- ・ 伝え合い活動により見直し推敲した下書きを基に清書しよう。
- ・ 習った漢字を使って、丁寧に書こう。

書き上がった作品

- ・ 自分で読み直して、確認しよう。
- ・ 友達と交換して読み合おう。
- ・ 作品の感想を伝え合おう。